

令和五年度

第三十九回 青少年の主張矢祭大会

作文集

矢祭町青少年育成町民会議

開催趣旨

矢祭町は、元気な子どもの声が聞こえるまちづくり」を基本理念に掲げ、行政、議会、町民がそれぞれの役割を果たしながら、独立独歩のまちづくりを進めていくことを誓っています。恵まれた自然環境の中で、夢を持って子育て・子育てが出来る風土こそが矢祭町の誇りであります。

青少年の主張大会は、矢祭町の未来を担う子供たちが、自分たちの抱える未来への想いを発表する場です。その強い想いを、行政、議会、町民がそれぞれ真摯に受け止め、これらからのまちづくりに対する責任を再確認する場でもあります。

未来を担う子どもたちの成長を見守りながら、これからの矢祭町に思いを馳せる、そんな場になって欲しいと願っています。



【目次】

第三十九回青少年の主張矢祭大会

「小学生の部」

◎最優秀賞

☆「自分らしさ」を大切に

矢祭小学校六年

高澤 柚・・・4

○優秀賞

☆私たちの未来のために

矢祭小学校五年

金子 友希・・・6

☆努力すること

矢祭小学校六年

増子 琉愛・・・8

「中学生の部」

◎最優秀賞

☆理想の自分になりたい

矢祭中学校三年 戸田 隆翔・・ 10

○優秀賞

☆行動に移す

矢祭中学校一年 戸田 紗弥加・・ 12

☆「自分らしく」生きる

矢祭中学校二年 本田 朱莉・・ 14

「高校生の部」

◎最優秀賞

☆無垢の花たちを守る壁

学校法人石川高等学校一年 本田 真仁・
・
・
・
16

○優秀賞

☆活気溢れる矢祭町へ

福島県立修明高等学校一年 伊藤 文菜・
・
・
・
18



最優秀賞

「自分らしさ」を大切に

矢祭小学校 六年 高澤 柚

みなさんは、「人権」という言葉を聞いてどんな権利を思い浮かべますか。人権とは、「人が、社会の中で、自由に考え、行動し幸せに暮らせる権利」のことで、全ての人が生まれながらに持っている権利です。私は「自分らしく生きる権利」だと考えます。

では、みなさんは、生活の中で「自分らしさ」ということに、違和感を感じたことはありませんか。私は今までいくつか感じたことがあります。例えば、三年生の時、習字バッグを青色にし

て、周りの人から「男の子が選ぶ色だよ。」と言われたこと。図工の時間に男の子がピンクの色紙を選んだ時、周りの人たちに「女子の選ぶ色だ」とか「普通男なら青とか選ぶ」と言われている場面を見たこと。来年、中学生になり制服を着る機会が出てきますが、男の子はズボン、女の子はスカートを着ることが普通と思っている人が多いことなど。このようなことから、私は、男女の差を感じることがあります。今、学校の制服も女の子がズボンをはいたり、男の子がスカートをはいたりと自分で選べるという話を聞いたことがあります。価値観は、人それぞれ違い、国によっても違いがあるのだと思います。ですから、「男の子だから」「女の子だから」という考えにとらわれずに、自分の好きな色や柄、服装など、ためらうことなく、選択できるようになってほしいと思います。選択肢を広げ、個性を自由に表せるように、一人一人が価値観を見直すことが必要だと考えるようになりました。

もう少し視野を広げてみましょう。世界には同性婚という考えを認めている国があります。しかし、日本では、まだ同性婚は認められていません。私が調べた同性婚を法的に認めることについての調査では、約六十三パーセントの人が賛成、約二十四パーセントの人が反対していることが分かりました。性別に

関係なく人を好きになれる世の中になった方がいいという人が多いのに、同性婚を認めない人がいるのはなぜでしょうか。それは、男女が恋をして、結婚するのが「普通」だと思っている人がいるからです。世界には、男性でも心は女性、女性でも心は男性というトランスジェンダーの人やいろいろな個性を持った人が増えてきています。このような世の中でこれから生きていくには、私達の考え方も変えていく必要があると思います。二〇一五年から東京都渋谷区などが同性カップルに「男女の結婚相当」を認めるパートナーシップ証明書を発行できる条例を作りました。これは大きな一歩だと思っています。さらに、最近では、男女関係なく着ることができる服などが販売されたり、男女どちらにも使えるトイレが設置されたりと、トランスジェンダーやいろいろな個性を持った人が「自分らしく」過ごすことができるような工夫が増えてきています。

私たちは、生まれながらに自由に生きる権利を持っています。「男だから」や「女だから」ということを理由にその人の個性を尊重せず、差別するようなことは絶対にしてはいけないことであり、そのようなことがない社会を作っていかなければなりません。たくさんの人に、それぞれの個性の尊重を意識して「自分らしさ」を大切に生活してほしいと思います。

みんなで、「自分らしさ」が自由に出せる世界にしていきたいと思います。





優秀賞

私たちの未来のために

矢祭小学校 五年 金子 友希

みなさんは、SDGsという言葉聞いたことがありますか。SDGsとは、世界中にある環境問題、差別、貧困、人権問題などといった課題を世界中のみんなで二十三十年までに解決していくという計画・目標です。私がこの言葉を初めて聞いたのは、小学校二年生の時で、その頃の私はこの言葉がどのような意味を持っているのか分かりませんでした。しかし、地球温暖化や食品ロスについて学習したときに必ず最後にたどりつくのは、このSDGsという言葉でした。さらに、学習していくと

SDGsの目標には十七個の目標があることがわかりました。

私にはこの十七個の目標のうち、特に関わりがあり、考える機会が多かった目標の一つあります。それは、目標三の「すべての人に健康と福祉を」です。ではなぜ、SDGsにこの目標三が必要なのでしょう。私たちは健康だからこそ、家族との満たされた時間を過ごしたり、学校に来て勉強をしたり、スポーツを楽しんだり、仕事に打ち込んだりすることができます。そして、それを支える福祉の充実によって、さらに心も体も満たされた豊かな社会の実現を図ることができます。だからこそ、この目標三は、SDGsにとって必要不可欠なのです。

私の母は、私が四歳の時に交通事故にあい、足にけがを負いました。七年ほどたった今も、事故の後遺症により、足をうまく動かすことができません。そんな中、私は、ふと世界の交通事故の状況や福祉がどのように行われているのか疑問に感じ、調べてみました。世界では、年間約百三十五万人の人が交通事故で亡くなっています。これは、一日あたり約三千七百人の人が亡くなっているということです。この目標三にも、「世界の交通事故による死傷者数を半減させる」という交通安全に関するものも含まれています。交通事故は、重要な社会課題です。では、どうしたらこの目標に近づけるのでしょうか。私は、何

よりも「交通ルールを守る」ということが大切だと考えています。「信号無視をしない」「飲酒運転をしない」「ながらスマホをしない」「シートベルトをする」「法定速度を守る」などといった交通ルールを守ることの重要性を一人一人が理解し守ることで、交通事故を減らすことにつながるのではないのでしょうか。私はまだ車を運転することはできませんが、自転車に乗る際は、「ヘルメットを着用する」「左側を走行する」「自転車の整備」などといった交通ルールを徹底していききたいと思います。一人一人の行動で、ひとつのかけがえのない尊い命が失われずに済むのです。幸い、母は一命をとりとめました。そして、手厚い福祉制度により、足が不自由ながらも、元気に生活できていることをうれしく思います。

しかし、以前「大人になることができない子どもたち」というSDGsに関するニュースを見ました。これは、世界では五歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもたちが年間約五百六十万人もいて、これは五秒に一人の子どもの命を落としているということでした。正直、このことを知った時には衝撃を受けました。日本では当たり前のように受けられる医療も、世界には十分な医療を受けることができない国も多くあります。今、こうして当たり前のように毎日学校に来て勉強をして、友達と楽

しく過ごせていることが、どれほど幸せなことなのかということとを改めて実感しています。十年後の世界では、小さな命が救われ、みんなが幸せに暮らしていてほしいと強く思います。

私が先ほど述べたものは、SDGsのほんの一部に過ぎません。SDGsという言葉は耳にしたことはあっても、実際のその詳細について理解している人はどのくらいいるのでしょうか。私も初めは、知らないことばかりでした。まずは「知る」ということが、課題への解決の一步となります。一人一人が世界の様々な問題に目を向け、普段の生活でできることを考え、実行していくことが求められます。個人の力は小さくても、社会に生きるみなさんで力を合わせれば、きっと大きな力になることを信じています。今を生きる私たちの未来のために。





優秀賞

努力すること

矢祭小学校 六年 増子 琉愛

皆さんは、これまでに、「努力すること」の意味を考えてみたことはありますか。私は今まで何をやるにも努力して頑張っていたと思っていました。でも、これまでの自分を振り返ってみると、「やってみよう」、「できるようにになりたい」と思っていただけで、それに向かって努力していなかったことに気づきました。本番頑張っただけで、頑張ることができたのは、六年生になってからです。それに気づくことができたのは、六年生になってからだと思います。

一つ目は、運動会です。昨年私は、徒競走で転んでしまい、リレーの選手にも選ばれず、補欠で悔しい思いをしました。今年は、昨年の悔しさを晴らす思いで反省をしながら、家でも走る練習をしました。その結果、徒競走では一位になり、リレーの選手にも選ばれ、代表として走ることができました。リレーの結果はチームのアクシデントもあり、最下位だったので、とても悔しかったです。自分の精一杯の力を出し切り、みんなと一緒に命走り切ることができたので、良かったと思えました。二つ目は、水泳です。私は泳ぐことが苦手で、今までに二十メートルも泳げませんでした。息継ぎがうまくできず、すぐ足についてしまいます。今までの私は、「できない」、「嫌だな」と思って、練習することから逃げていました。しかし、先生に、「最初から上手に泳げる人なんていない。息継ぎや泳ぎ方がかっこ悪くたってかまわない。絶対足をつかないで泳ぎ切ろう」と思って泳いでみなさい。」

と言われ、「かっこ悪くてもいいんだ」とやる気が出てきました。私はそれから足を何回ついても、息継ぎや泳ぎ方がかっこ悪くてもあきらめず、何回も何回も泳ぎました。今まで授業で泳いだことがないくらい泳いだのです。そして、いつの間にか二十メートルを泳げるようになり、泳ぎ方もきれいになっていま

した。

そしてもう一つ、私が一番努力したのは、陸上です。今年初めて日清カップの百メートル走に挑戦しました。県南大会予選の時から県大会に出場することを目標に練習に励みました。学校の練習だけでなく、父に、陸上のできる運動場に連れて行ってもらい、練習もしました。県大会の前日にはモチベーションを上げるため、ボルト選手の走り方を見てイメージトレーニングもしました。今までこんなに練習したことがないくらい努力しました。県大会での結果は、自己ベストが出せず、悔いが残る走りでした。努力をしても、必ずしも結果が出る訳ではないこともこの時学びました。

私は六年生になって、本当に努力したなと思える経験がたくさんできました。

努力とは、本番だけ頑張ることではなく、この目標に向かってひたすら練習すること、苦手なものにも挑戦し、頑張ることだと気づくことができました。そして、努力しても報われないこともあります、結果はどうであれ、そこまでいかに頑張ってきたかということが自分の成長につながっていくと思います。だから努力をやめてはいけないと私は思います。やめてしまったらこのような貴重な経験ができなくなってしまうか

らです。

私はこれからも努力することをやめません。運動会や県大会で悔しかった気持ちや、水泳で泳げるようになった喜びを絶対に忘れず、目標に向かって、努力をしていればいつか達成することができ、そう信じて、たくさんの方にチャレンジし、努力し続けていきたいと思っています。





最優秀賞

理想の自分になりたい

矢祭中学校 三年 戸田 隆翔

皆さんにとっての理想の自分とはどのような人でしょうか。私にとっては、自信に満ち溢れていて、どんな時にも動揺しない強いメンタルをもっていて、人前に出ても堂々と発表したり行動したりできる人、それが私の考える理想の自分です。いったいどれほどの時間がかかるかわかりませんが、私はそのような人を目指したいと考えています。

もう二年半以上前のことです。中学生になったばかりの私にはそんな自信は微塵もありませんでした。小学生の頃は、運動は

できないものの、それなりに勉強ができて、みんなの中心から少し離れた立ち位置を楽しんでいました。しかし中学校に上がる時、これからは今までと同じようにはいかないだろうと感じました。勉強も運動も何もかもうまくいなくなるのではないかと。だんだんと落ちこぼれていくのではないかと。そのような不安にとらわれていました。そうです。当時の私は自分のことを信じられなかったのです。このままではこの空っぽな、たいした取り柄のない自分に対して嫌気がさしてしまいそうで、自分はこれからどのような中学校生活を送ることになるのかと暗い気持ちでいました。

状況が変わったのは一年生の二学期の後半でした。ある日、生徒会役員選挙の説明がありました。この話を聞いたとき、私は「これだ!」と思いました。今の自分を変えるには、環境を思いっきり変えるしかない。今までやったことのないことをして自分を変えるしかない。そう思った私は生徒会役員選挙に立候補しました。先に言ってしまうと、私はだれとも争うことなく生徒会役員として任命されました。対抗馬がいなかったからです。しかし生徒会役員になったことに変わりはありません。これから自分を変えるのだと意気込んでいました。しかし、環境が急に変わると慣れるまでに時間がかかります。私は最初、慣

れない環境からか、ミスやトラブルが多くありました。しかし、経験を重ねて仕事に慣れていくうちに、だんだんとそれらは減ってきました。そして今ではいろいろな仕事を任せてもらえるようになりました。

私は入学当初と比べ、自信ができました。それは、生徒会に入ってから多くの失敗や成功を積み重ねてきたからです。それが今の自分の自信につながっているのです。しかし、理想の自分にはまだまだ遠く、今のままでは満足できないと感じています。だからこそ、理想の自分に近づくためにこれからも努力を重ねていかないとけません。今までの努力で得たものをもとに、新しいことに挑戦して、できることを増やしていきたいと思います。その途中で迷い、壁に当たった時は信頼する人に相談して解決策を見つけないかと思っています。一人で抱え込まなくてもよい、周りに頼っても良いということに気づけたことも、生徒会の活動から得た大きな成果のひとつです。

私は、最初は何もない空っぽな人間でしたが、それを変えるために生徒会役員になり多くの経験を積んで、少し自信を持つことが出来ました。初めの一步を踏み出すことは誰にとっても難しいことだと思います。しかし、今の環境を変えようとするために動こうとする気持ちさえあれば人は変わることができるの

です。この先の長い人生の中で、理想の自分になるまでにはたくさん挫折したり、行き詰まったりすることがあると思います。その時は、今まで経験したこと、学んだことを生かして目の前の壁を突き破ろうと思います。

そして、もし、理想の自分になれる日が来ても、そこで終わるのではなく、新しい理想の自分を求め、自分の足りないところを探して、さらに成長できるようにしていきたいと思っています。そしていつか、誰の前であつても自信をもってどうどうと行動できる自分になって見せます。どうか応援してください。よろしく願います。





優秀賞

行動に移す

矢祭中学校 一年 戸田 紗弥加

私は、矢祭町があまり好きではありません。ふるさとであるはずの矢祭町を好きでいたいのですが、なぜかだんだんと好きではなくなってしまうています。都会へのあこがれもあるのかもしれません。矢祭町での生活は楽しいのですが、自分の可能性を狭くしてしまうのではないかと漠然とした不安を感じています。

私は、将来の夢に迷っています。小学校時代の私には、薬剤師になりたいという夢がありました。きっかけは、テレビドラ

マです。病院薬剤師として働くそのドラマの主人公は、とても輝いて見えました。しかし、その夢が今はぼやけてきてしまっています。なぜ、将来の夢がぼやけてしまっているのか、考えてみました。

先日、担任の先生と将来について話す機会がありました。私は、将来の夢を話すことができず、ゆっくり考えたらいいよと助言をしてもらいました。本当は、夢があったのにな…そんな風に心の中では思っていました。薬剤師という仕事は、大学の薬学部を卒業しなくては、なることができません。その後、国家試験に合格し、現場に出ても、たくさん薬の中から、処方箋に合わせた薬を患者さんに提供します。私にそんなことができるのか、とても不安です。実際に、薬剤師の仕様の様子を見たこともないし、大学や国家試験というものを身近に感じたこともありません。私が、矢祭町をだんだんと好きではなくなり、不安を抱える理由は、ここにあるのかもしれないと思います。矢祭町には、大学はもちろん、高校もあります。近くの高校まででも、車で30分はかかります。高校生や大学生の兄弟がいなくて、薬剤師として働いている大人も身の回りにはいない私は、将来の夢の具体的なイメージがもてないのだろうなと思います。だから、不安を感じてしまうのだと考えます。私たち

は、2年生になると、職場体験があります。その際に、薬剤師の方の話がきけるチャンスがあれば、色々なことを聞いてみたいと思います。また、矢祭町に高校や大学がないからと言って、作ってほしいなんて無理なことはありません。ただ、見学の機会や学生の方の話を聞くような機会があったらいいと思います。

自分の将来について、考え、調べるうちに矢祭町の良いところも分かってきました。矢祭中学校では、生徒一人一人にタブレットが貸し出されています。今年異動してきた先生方は、口をそろえて「こんなに性能が良いタブレットはうらやましい。」と言っています。また、家庭への持ち帰りも許可されていて、今回も、作文を書くために、たくさん情報を調べることができました。また、全国でも有名な「もったいない図書館」では、職業に関する本も充実していて、学習用の机もあります。それらをうまく利用すれば、私の将来に関する具体的なイメージを膨らませることもできます。

また、矢祭町には、他の地域から何名かの人たちが来て、町を盛り上げてくれています。私の母から、学校でタブレットの使い方などを教えてくださる方も、その一人だということ教えてもらいました。もったいない図書館の説明にきてくれた女性

の方々も、その一員のようなようです。都心から、矢祭町に移住…。私には、想像できません。そのような方々はどのような気持ちで、矢祭町に移住し町を盛り上げてくれているのか話を聞いてみたいと思いました。

将来のことについて考える内に、少しずつ、不安は薄れてきました。自分の可能性を狭くしていたのは、環境ではなく、行動できない自分自身だったのです。矢祭町の目指す子どもの姿には「地域社会の形成に積極的に参画する」というものがあります。私は、薬剤師という夢を叶えるために、矢祭町で積極的に行動していきたいと思います。そして、いつか私も矢祭町を盛り上げ、矢祭町に寄り添えるような薬剤師になりたいと思います。



優秀賞



「自分らしく」生きる

矢祭中学校 二年 本田 朱莉

皆さんにとって「自分らしく」とはなんでしょうか？私がお話したい「自分らしく」とは、「何が好きで何が嫌いか」のような非常にシンプルなものです。例えば皆さんは、友人に対して堂々と「何が好きで何が嫌いか」を伝えることはできますか？私は自分の好きなものを堂々と「好き」と言いたいのです。私は「私らしく」生きたいだけなのです。しかし、これを実行することは簡単ではありません。私は自己主張が苦手だからです。「あれが好き。これは嫌い。」きっとみなさんは日々の会話でそ

のような話題が出ていることでしょう。私ももちろん学校などでそのような話をします。しかし、その話題が出るたびに、私はモヤモヤした気持ちになります。なぜなら私は、本音で話せていないからです。私は人の顔を伺い、相手に合わせてしまいう癖があります。例えば、本やゲームのキャラクターの話をしているとき、友達がそのキャラクターを嫌いだと言えば、私もそれに合わせて嫌いだと言ってしまう。本当はそのキャラクターのことが好きなのに。この癖との付き合いも長くなり、好きなものを好きと言えない場面がだんだんと増えていき、私は「私らしく」を出せずに生活するようになってしまいました。

そんな私ですが、最近少しずつ「私らしく」を出せるようになりました。私らしく生きるには、何があっても自分自身と向き合うことが一番大切だということに気づけたからです。自身と向き合うとは、自分の考え方や感じ方を認めるということです。「人と違うからだめ」のではなく、自分の意見もたくさんある中の一つであると考えなのです。すると、「あの人はこう言うけど、私はこう思うな」と、自分の意見を遠慮せず伝えることができます。

しかし、自分の意見を伝えることは簡単ではありません。なぜかという我々には「周囲に共感を求める習性」があるから

です。例えば誰かが「私はこう思う」と言えば周りも「私もそう思う」と言っている場面を見たことはありませんか？このやり取りは集団の人間関係を維持するのにとても重要です。そのやりとりをすることでその集団の一体感を演出することができま
す。特に学校の友達グループのような小さな集団では定期的に行う必要があるようです。ただこれをやりすぎてしまうとその場の雰囲気はよくなりますが、「自分」というものが埋もれてしまうのです。もっと言えば、自分が所属する集団の大きさでも変わってくるのだと思います。例えば高校、大学、社会と所属する集団が大きくなればなるほど、私たちは自分を主張しないとまるで最初から誰もいなかったかのように扱われるのかもしれませんが。せっかく自分らしさを出せるようになったのに、またそれができなくなるのは嫌なのです。

そうならないためには無条件に共感するのではなく、お互いの話をちゃんと聞いて認め合うことが大事なのではないでしょうか。つまり、「人の意見を聞くこと」と「自分の意見を伝えること」をすればよいのです。「人の意見を聞くこと」ばかりしていたらその会話の中に一つの選択肢しか出てきませんが、「自分の意見を伝えること」も会話に取り入れることで二つ以上の選択肢ができると思います。そして、考えをさらに深めることが

できるものではないのです。

私はこれから進学、就職しながら大きな集団に関わっていきますが、その中でも自分を無くさず「私らしさ」を出していきたいと思います。そして関わった人たちとしっかりとコミュニケーションを取り、その人を深く理解し、自分のことを理解してもらい、表面だけのつながりではなく、心の通じ合うつながりを目指していきたいと思います。





最優秀賞

無垢の花たちを守る壁

学校法人石川高等学校 一年 本田 真仁

私は学校で毎朝新聞を読んでいます。そして感想や内容をまとめてペアの人に一分間スピーチをしています。その新聞で私は「児童虐待」についての記事を多く見ます。これらの内容を讀むと、「なぜ罪のない子供が親の身勝手な理由のために辛い思いをしなければならないのか」「将来なんでもできるはずの子供の命をなぜ親が奪ってしまうのか」と思い、苛立ちと悲しみを覚えます。

児童虐待には大きく分けて四つの種類があります。身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待です。身体的虐待は大き

に殴ったり蹴ったり叩いたりすることを指します。性的虐待は子供への性的行為をしたり見せたりすることです。ネグレクトは家に閉じ込めたり、ご飯を与えなかったり体調が悪くても病院に連れて行かなかったりすることを言います。心理的虐待は言葉で脅す、無視する、兄弟間での差別などがあります。子供に「バカ」「アホ」などと言っただけで虐待となります。

皆さんは虐待をしていないと自信を持って言えるでしょうか。私が逆の立場に立ったら自信を持ってやっていないと言えないと思います。子供が自分の言うことを聞かず、イライラして暴言を吐いてしまうことも虐待になってしまいます。

今問題になっている児童虐待について私たちができること、またこれを未然に防ぐための対策を考えてみました。

それは、一人で育児をしようとしません。これはワンオペ育児と言って父親は仕事をして、母親だけで育児をしていることを指します。今の日本で働いている母親が育児をやっていることが多くあります。子供はわがままです。いくら子供を愛していても、ストレスは溜まってしまいます。その状態で一人で育児をしていくと育児に疲れてしまいます。そしてわがままな子供に手を加えてしまい、虐待となってしまうので

す。この状況を変えるために私たちがやらないといけないことは何でしょうか。矢祭町には、「やまつりこども園」があります。

私もここに通っていました。このこども園には保育部と幼児教育部があり、0歳から五歳までの子供を預けることができます。

無理して育児をするのではなく、町や市の保育所、幼稚園、こども園に子供を預ければ、虐待もなくなると思います。

しかし今の日本、育児施設に子供を預けられない状況があります。

この問題を解決するために、高校生や中学生が子供の世話をする部活を作れば良いと思います。平日は授業があるため学校終了後にこども園に行き、土曜日は一日中子供の世話をすると言う部活です。しかし学生では、何かあった時責任を負うことはできません。また、問題に素早く対応することもできません。だから学生だけでなく、高齢者の皆さんと一緒に活動するというのがどうでしょうか。これは育児をしている人が安心して子供を預けることができストレスを抱えず虐待への原因がなくなると思います。また、学生と高齢者が一緒に活動すれば、地域全体が今以上に良くなると思います。

学生の中から子供と触れ合っておくことで育児の大変さ、楽しさを実感することができ、未来の児童虐待が減ると思います。

将来の日本は、子供より高齢者が増える少子高齢化が今以上に進んで行きます。虐待という恐怖から子供を守ることができるのは私たちです。それをやらないで後悔するより、私はやってみたい。私は子供たちの壁になりたいと思います。どうか皆さんも児童虐待について考えてみてください。





優秀賞

活気溢れる矢祭町へ

福島県立修明高等学校 一年 伊藤 文菜

皆さんは自分達が住む矢祭町の課題をよく考えたことはありますか。近年、問題になっている高齢化や少子化が矢祭町でも進んでしまっているのが現状です。昔は、賑わいのある商店街があり、人々が集い活気に溢れた町でした。しかし今では、町は静かになり、人口は減っていています。ですが、私たち若い世代にとっては、この矢祭町こそが私たちの故郷であり、大切な思い出がつまっている場所です。そんな矢祭町が衰退していくところをただ見ているのではなく、活性化し、活気溢れる

町にしていきたいと思っています。

そのためには、町おこしや町全体のPRが重要だと思っています。そもそも町おこしとは、人口減少や高齢化などが原因で衰退してきている町を再度元気づけ、観光客を招き、活気を取り戻そうとする活動のことをいいます。このことから、地域の人々と協力して、矢祭町をより魅力的な町にできるような取り組みを他県の成功例をまじえ紹介します。

一つ目は、イベントの企画と運営です。町を活性化させるためには、地域の人々が集まるイベントが必要です。若い世代がイベントの企画や運営に参加することにより、若い人たちが集まりやすいイベントになるのではないのでしょうか。地元の食材や名産品を多く使ったグルメフェスティバルや、音楽やアートを楽しめるフェスティバルなど、幅広い世代に楽しんでもらえるものになるはずです。

二つ目は、SNSを活用した活動も矢祭町の魅力を伝えることができると思います。Instagramや旧ツイッターなど、若い人達が普段からよく使うコミュニケーションツールがあげられます。また、矢祭町の魅力を発信するときには、ハッシュタグをつけ、キャッチコピーを考え、観光名所を紹介することにより、多くの人の目にとまりやすくなり、魅力が伝えられる

かもしれません。その他に、若い世代にぜひ取り組んでほしいものがあります。それは、地域ボランティアに参加することです。それにより、地元の人々と交流し、地域の歴史や文化に触れることができます。私たち若い世代が学ぶことができることはとても多いです。例えば、公民館での行事やお祭りの準備や町の清掃活動、小学校の運動会の手伝いなどがあります。自分たちが住む矢祭町をよりよくしていくために、積極的な参加が必要です。

このように、私達にはできることがまだあります。町おこしに力を入れることで、町が活性化し地域の人々が元気になっていくと信じています。成功例も取り入れながら、活気溢れる矢祭町にしていきたいです。ご清聴ありがとうございました。



編集後記

皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。おかげ様で多くの方々にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和五年十二月 発行

発行者 矢祭町青少年育成町民会議

事務局 矢祭町教育委員会教育課

